

巻頭言集

目次へ

岳友

豊中労山

No.429

(平成24年) 2012 Jan.

1月号

【トピック】

☛ **重要**新年会お知らせ・・・P11



“人 山を愛し、山 人をつくる”

大阪府勤労者山岳連盟

豊中勤労者山岳会

<http://homepage2.nifty.com/toyonakawac/>

目 次

- 山の会との出会い…………… C班 井上 満鶴 [BMP1212](#)
- 豊中労山に入って…………… A班 福家 枝里 [BMP1211](#)
- 今、私ができること…………… A班 川本 範子 [BMP1210](#)
- 思いつくまでに40数年…………… A班 村瀬 令子 [BMP1209](#)
- 山との出会い…………… A班 仁井谷 さとみ [BMP1208](#)
- やまとわたし…………… A班 向谷 恵理子 [BMP1207](#)
- 仲間と共に…………… A班 吉村 叔郎 [BMP1206](#)
- 山に向き合うこと…………… B班 碓井 亮 [BMP1205](#)
- 中高年の安全登山を求めて…………… A班 石井 隆男 [BMP1204](#)
- 最後の晚餐…………… C班 安藤 誠一郎 [BMP1203](#)
- 幸せについて
 本気出して考えてみた…………… C班 細井 裕子 [BMP1202](#)
- 私と豊中労山…………… A班 高橋 美明 [BMP1201](#)

【2011年分は「巻頭言集綴」です】

山の会との出会い

C班 井上満鶴

私の、山の会との出会いはずいぶんと前の事で、まだケイタイもない時代でした。今のような山ブームのその前の「山ブーム」のころです。2～3人でやっている学生のころの山岳部メンバーの会にまずは参加しました。ホテルのロビーなどで会合して、何かとお金を集めるうさんくさい会でしたので、一年ほどでやめました。

そうこうしているうちに、職場の組合の仲間と、新体連のスキー協に参加するようになり山の会の話も出ましたが、山の経験者が誰もいず、新聞の山の会の募集を捜していたら社会人のワンゲルの会を立ち上げるというのを見つけました。どうかな・・・とのぞいてみると10人ほどで準備をしていました。その中にワンゲル経験者が2人いて、「ワンダーフォーゲル〇〇〇と名付けたい」と発表されました。会にいったので職場のメンバー数名と参加しました。その頃には毎日新聞にいろんな会の無料の募集欄があり、連続して一年ほど募集したら、あっという間に40名ほど集まりました。(若い子ばかりでした)山ブームなんだなーと思ったものです。そのころにはまだ、合コンなどという言葉はなかったけど、まるで合コン登山のような雰囲気ですととても楽しい山行が何回も続きました。

そのうち、ワンゲル経験者が「やっぱり夏山をめざそうやー」ということになり、北アルプス3泊4日のテント泊が提案され、生まれて初めてのワンゲルのボッカトレーニングという事になりました。

山の会との出会いはボッカという苦しく、また楽しい試練の始まりでもありました。そのころの仲間20数名とは、まだ親交を深めています。山の会との出会いは、さまざまな人との出会い、すばらしい山との出会い、そしてかけがえのない人との出会いでもありました。

豊中労山に入って

A班 福家枝里

豊中労山に入会したのは5年前です。ハイキングのグループに入りたいと思い、ネットで探して見つけました。「労山」ってなんか堅い名前だな、と思いましたが、こんなに本格的な会だとは思わず、軽い気持ちでした。初めて参加した公開ハイキングは天王山。いいお天気で谷筋を登っていくと九輪草の群落がきれいに咲いていました。団体で山を歩くのは初めてで何もかも新鮮でした。帰りに大山崎山荘に誘ってくださって、6, 7人が山荘のテラスでおいしいケーキとコーヒーでおしゃべりしたり景色を眺めたり…。とても居心地がよくてすぐ入会を決めました。

入会してからは碓さん主催の「大阪里山歩き」を中心に参加しました。近場だし里山なら私でも歩けると思ったからです。でもそれは甘い考えで、変化に富んだ里山は急登あり岩あり、天気が崩れることもあり。山を知り尽くした碓さんの後について一生懸命歩きました。歩きながら山の話聞くのも楽しく、歩き方から装備のこと、安全のこと、地図を読むこと、花や動物、山菜の料理法、たくさん教えてもらい、そのうちに皆さんが「初級」と呼ぶ登山学校に行ってみたいとふんわり思い始めました。

その後仕事やら家の都合やらで二年ほど山から遠ざかり、昨年やっと初級登山学校に入りました。年も年だし、最後のチャンスだという気持ちで。初級では言うまでもなく落ちこぼれでしたが、講師やスタッフの皆さんが惜しみなく手を差し伸べてくださって、楽しく得難い経験をしました。

そして今年の夏です。なんと三回も遠出しました。先輩の方々のおかげで楽しく歩けた甲武信ヶ岳、広高 CL+女子3名で笑い満載の木曾駒ヶ岳。中でも忘れられないのは初級同期との修了山行リベンジ、白馬縦走です。白馬鍾温泉を朝四時に出発して白馬鍾、杓子を越え、白馬岳山荘への登りでへばってしまいました。私だけ小屋泊まりの軽い荷物なのに。「もう無理。ここで泊まりたい。」と言う私を皆は励まし、お尻を押し、荷物も持ってくれて、やっとのことで白馬大池にたどりつきました。ああ、しんどかった！迷惑をかけてゴメンナサイ。ありがとう…。

これに懲りたかですって？とんでもない。またアルプスに行きたい、テント泊もしたい。私の山人生はこれからです。

みなさま、ありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願いします。

今、私ができること

A班 川本 載子

先日(9月)久しぶりに豊中労山の皆さんと山に登りました。と言いますのも私ただ今、宮城県南三陸町という所で災害ボランティア活動をしており、もうすぐ半年になろうとしているからです。

昨年の大震災が起こってから何か私にも出来ることは無いだろうかとずっと考えていました。支援の仕方は色々あるとは思いましたが私は長期で現地入りして活動(お手伝い)することしか頭に無くちょうど一年経った今年の3月に南三陸町に入りました。

まだ雪が降る寒い東北に私は50リットルのザックに 1.5人用のテントと3シーズンのシュラフを詰めて乗り込みましたがなめていました。少し暖くなるまで車住いをさせてもらいました(情けない・・・)。今は快適?テント生活をしていますよ!

それは置いといて、現地入りして最初に見えたものはテレビで見たことのある瓦礫の山ではなく家の基礎だけが残っている異様な景色でした。基礎が見えているということはボランティアが入り細かい瓦礫を拾い集めスコップで基礎出しをしたということで未だ基礎が出ていない区域もまだまだたくさんあります。自分の家があった所が草ボーボーで基礎も出ていない。それを見ながら通勤通学。一年半経った今もそんな状態。どんな気持ちなんだろうと考えた時一日も早くそこをきれいにしたいという思いが強くなりました。たとえ将来そこに家が建たなくてもきれいになることで彼らの心に変化があればいいなと日々思っ...

はっきり言って南三陸町復興は遅れていますが、町民の皆さんがんばっています。漁師さんも力を合わせてワカメ・カキ・ホタテの養殖に励んでいます。関西にいる皆さん「おでっさ来てください!」(方言でお手伝いしに来てください)とは言いませんが関西で居ながら出来るお手伝いで簡単なことは「三陸ワカメ」を買うことだと思うんです。忘れかけていた方もどうか忘れないでいて下さい。私はもう少し南三陸町でお手伝いさせてもらいます。

思いつくまでに40数年

A班 村瀬 令子

小さい頃からハイキングが好きだった。高校の時に林間学校で登った富士山も思い出深いですが、27歳の時に登った立山が一番印象に残っている。

山登りを始めた友達が、すべて準備するからと誘ってくれた。私はリュックと登山靴しか持っていなかったの、雨具は彼女が貸してくれることになり、計画や手配もやってくれた。ところが…夜行バスを降りると雨だった。霧が立ち込め景色は全く見えない。本当ならお花畑が見えるんだけど…と彼女は申しわけなさそうだったが、それでも沢の水で作ってくれたラーメンがとてもおいしく、初めて泊まる山小屋も物珍しくておもしろかった。翌日は土砂降り、おまけに日頃の運動不足がたた、すでに全身筋肉痛。まるでロボットのようにしか動けない。でも、途中でやめるわけにはいかない。この時、新しい雨具を私に貸してくれた友達は、自分は古い方を使って中まで水がしみてビショビショだったらしい。やっとの思いで辿り着いた黒部ダムは、数日來の雨で満水となり、噴水のように水が放出されていて、それは雄大で美しかった。お天気もすっかり回復していて、来てよかったと思った。それから3日間は筋肉痛のため家で全く動けずに過ごした。訓練山行の必要性や、初心者連れて行ってくれた友達がどんなに大変だったかが今ならよくわかる。

その後は、子供ができると、箕面や六甲によくハイキングに行った。夏休みにはちょっと遠出をして赤目四十八滝や大山にも行ったが、それも小学校まで。中学に入るともうついて来てくれない。ところが、長男が高校でワンダーフォーゲル部に入部した。山好きになってくれたとうれしかったが、手を離れたようで寂しくもあり、その時やっとな気がついた。私も自分で山に登ろう…。自分で山に登ろうと思いつくまでに40数年かかりました。

それからは一人で行ったり、モンベルのツアーに参加したり。友達も誘ったが、「登山って途中でやめられないでしょ。」と、ポイントをついたことを言う。それがいいところなのに。そうこうしているうちに、豊中労山のサイトを見つけて、2010年11月に入会した。入ってみるとみなさん気持ちのいい方ばかりで、何もわからない私にもいろいろ教えてくれて、仲間として接して下さる。立山に勝る思い出をたくさん作れたらなと楽しみにしている。

遅ればせながら、今年初級登山学校に入校させていただいた。実技は毎回すごい雨で、もうみんなヨレヨレ。終了山行は10月に八ヶ岳に行く予定なので、どうか晴れるように、みなさん、一緒に祈ってください！

どうかこれからもよろしく願います。

山との出会い

A班 仁井谷さとみ

私が豊中労山に入ったのは、2005年の事であり、それが同時に山を始めた時期でもある。山を始めたきっかけになったのが、上司に言われた一言だった。「何か趣味を持たないとね。」

そこから、何を始めればいいのか考え、料理教室でもなく習い事でもなく悩んだあげく「富士山に登りたい。」と思いたった。しかしながら、山登りなんて学生時代の遠足くらいでどうやって始めればいいのかわからず探していると、インターネットで豊中勤労者山岳会の存在を知る。さっそく山を始めたい熱い気持ちをその時の組織部長さん・会長さんに伝えた。しかしながら、ザックの存在・登山靴の存在・山での服装など何が良いかも知らず何も持っていない私に本当に丁寧・親切に教えてくださった。多分今からその時の事を考えるととても恥ずかしい思いでいっぱいである。いざ山登りをすると、皆様は軽快なリズムで登っている一方で、私はというと「こんなにきつい事が世の中にあるのか」と楽しく感じるまでかなりの時間を要した。しかしその結果があって富士山では軽快なリズムで登る事ができた。

翌年、初級登山学校に入った。年齢も職種も違う人達と多分、登山会に入っていなかったら出会う事もなかったかもしれない仲間と出会い本当に楽しい、そしてあつという間の7年間だった。修了山行には、仕事の都合で行けなかったが、2年後に少し遅れた修了山行には行く事ができた。一番思い出のある山は、北穂高にいったときだ。朝のアルプスの空気が澄んでいて、何とも言えない壮大さがあり、夜は流星群を見てこんなにきれいな景色があるのかと感動したのを今でもしっかりと覚えている。初アルプスだった為、下山後数日間は、筋肉痛で歩き方がおかしく職場で笑われたのも思い出の一つになっている。

7年間の間に、私にとっても色々な事があった。その中で、時に少し立ち止まって考える事の大切さや悩んだ時に背中を押して応援してくれる仲間達がいた。そしてその中から新しい命も誕生し、本当言葉にできない位の多くの学びと喜びをもたらしてくれている。その仲間は、私に色々な挑戦をさせてくれる。「走って見ない？大阪マラソンに。」という言葉を引きかけに、昨年からはオリーブマラソンに参加し4月には四万十川桜マラソンにも参加し何とか完走の状態である。老若男女の何人にも抜かされ、自分の弱さをみせつけられた。山にも中々行けない環境にある為、行きたい山にいざという時に行けるようにする事を目標にしていきたい。

山の成長はというと、若干成長したとは言うには難しく何ともいえない状態であるが「焦らずゆっくりと自分のペースで進もう」を合言葉にしてきたが、あつという間の7年間になってしまった。もう少し体力をつけてしっかり山に登れるようにする事が目標と考える。今後は、行きたい山にも全然行けていない現状にあり、少しずつでも目標を達成させていきたい。これからもどうぞよろしくお願ひします。

やまとわたし

A班 向谷恵理子

私は山が好きです。人が好きです。自然が好きです。1日三食のご飯が好きです。だから山に登っています。だから豊中労山の皆さんと山行に行っています。だから草や花や虫を見て触って嗅いでいます。だから山の上で食べるご飯が格別に美味しいです。

豊中労山に入り、初級学校を終え、ありがたいことに、安全に無事に楽しく、いろいろな山に登らせてもらっています。ある年はがむしゃらにアルプスに行きました。3000m級の山の偉大なこと。すばらし過ぎた雲海。たくさんの雷鳥との出会い。コマクサの花々。高さを知り怖かったキレット。満点の☆たち。ある年は毎週のように山行に参加をさせてもらっていろいろな山を知りました。そして今年は可憐な山のお花をいっぱい見たくて花の山に行きたいと思っています。(余裕があれば、山小屋で働く素敵くん探してもいいかなと思います。ししし)どれもこれも“はじめの第一歩”で、山のいろいろな事を知りたいと思って、いつも首を突っ込んでいただけだったりもしますが・・・。

山での人と人とのつながりが私は大好きです。見知らぬ人同志なのに、気軽に挨拶を交わして、情報交換や世間話でお喋りを楽しめることが出来ます。危なっかしい登り方に見かねて、助けてくれるおじさまやおばさまがたくさんいます。(ありがとうございます)←私は安心して山に登れます、うふふ。山に登る人は、みんな気持ちがきれいでいい人です。自然を愛する人に悪党はいません。そんないい人ばかりがいる豊中労山での山行に参加をさせていただき、苦い顔をせずに温かく見守ってくれて、一緒に話を合わせてくれるみなさまに感謝をしたいと思います、いつもありがとうございます。

山は不思議です。登るのはとてもしんどいのにもまた来たいと思います。それは緑が大きく大きく見えるから。高いところから見る景色はやっぱり最高だから。いろいろな理由があるとは思いますが、山に行くと1週間の疲れがすっきりします。体が楽になります。小さいことにくよくよしなくなります。山は心の薬ですね。

こんなに大好きな山登り。ショッピングよりエステよりコンパより山登り。

いつまでもいつまでも山登り。いつまでもいつまでも実家暮らし。

山と一緒に愛する旦那さんを探して・・・。

どうぞこれからも温かいご指導のもと、よろしくおねがいたします。

仲間と共に

A班 吉村叔郎

学生時代に一人で北海道へ旅行した。大沼湖、駒ヶ岳の美しい絵になるような景色があり、羊蹄山は富士山のようにあり、感動した。利尻島では山に登ろうと思い、利尻岳に登った。時間はかかったが 疲れが吹っ飛ばすくらい景色も最高だった、山頂から見る海や麓が小さく見えた。これが私の山登りの始まりだった。

社会人になって、一人で 盆休みに台高の山に登ろうと思った。登り時はずっと雨が降っていた、山小屋で一泊して翌日登頂する予定だった。雨は一晩中降っていた。翌朝雨がやんでいたが、山小屋の人が小屋を閉めて下山すると言うので、登る事を中止して一緒に下山する事にした。登る時は 渡って来た谷川は少量だったのに、下山時は増水していた。困ったが 腰まで浸かりながら必死で渡った、今思い出しても怖い経験だった。

仕事も忙しくなり、又 他の団体活動に入会したので、年に数回しか山に行かなくなった。その間に、体重が増し腹が出て来たので、健康の為山に行くよう努めた。一人でガイドブックと登山マップを買って、六甲、生駒、金剛山等を電車とバスで行った。最初の時は、地形図やコンパスを使わなかったので、よく道を間違えた。失敗を繰り返していくと、判るようになり間違いは少なくなった。一人で行くマイペースで歩ける、しかし何か不都合があって 助けて欲しい時には求める事が出来ない。比良の武奈ヶ岳の下りの時、16 時頃 ダケ道の所で、足が痙攣した。リュックを担ぎ 痛みをこらえながら少しずつ歩いた。暗くなったのでヘッドランプをつけてやっと登りとの分岐点まで戻ることが出来た。気持ちが楽になり、痛みも和らいできて駅まで歩く事が出来た。足の痙攣や体調不良には気をつけたい。

それからの山行は、家族が心配するので主に日帰りツアーに参加した。ツアーの中には花に詳しい人がいて、教えてもらった。それなりに楽しかったが、ずっと続く仲間がいればもっと楽しいと思った。

豊中労山に入会させてもらった。初級学校に入校し、沢登り クライミングなどを経験した。先輩 若い仲間とも交流できて 本当に入会してよかったと思っている。

直近の山行は 八ヶ岳だった。硫黄岳を目指して 東天狗岳 根石岳 箕の冠山をワクワクしながら通過した。硫黄岳山頂から 横岳 赤岳 阿弥陀岳を間近に見ることが出来た。風が強かったが 素晴らしい景色が広がっていてすごく感動した。

まだまだ 仲間と共に感動したいと思う。

山と向き合うこと

B班 碓井 亮

この豊中勤労者山岳会に入会させていただき早一年。何十年も先輩の方々からみればまだまだ若輩者ですが・・・私にしてみれば久しぶりにめまぐるしい一年の日々だった。

一年を経過し少しずつ会の運営や動向に少しずつ触れていく過程で、どうして山が好きになったのかと遠い子供の頃の記憶を想起することがある。私の田舎は日本海に面する海と山に囲まれた小さな街。近くの山と云うほどのものではないが、親が山の田舎育ちであったこともありハイキングや山菜狩りに連れて行かれていた。その頃は幼く、体も弱かったこともありよくハイキングの際に泣いたりして親を困らせていたのを記憶している。

そんな中でも、登ることに關しては抵抗無く近くの岩や崖を遊び場として登っていた記憶もある。そのような幼い頃の経験を経て中高とすっかり山とは関わることも無く、サッカーに明け暮れた学生生活、社会人になり仕事に明け暮れた生活。30歳をこえ仕事にも余裕ができ何がきっかけだったか思い出せないが、「ふと」幼い頃の山への記憶が想起され「六甲山が近くにある」。着の身着のまま登ったのが新たな始まりだった。

そこからは、労山との出会いや年齢層の違う岳友との出会いなど冒頭にも記したとおり「めまぐるしい日々」を過ごし、そうした中で、私自身最近になって山への向き合いかたを感じるがあった。そこには原点で学んだ自然の中で過ごした幼い頃の遊びの感覚、そして大人になった感覚で都会の雑踏から逃れる想い。そうした感覚でいまの私は山と向き合っているのだろう。また年を重ね、山を知り何年か後はまた違う感覚や考えで山と向き合っているのだろう。その時が来ればまた是非、山との向き合いかたを考えてみたいものだ。

中高年の安全登山を求めて

A班 石井 隆男

私が豊中労山に入会のきっかけは家内が山行時に手助けが欲しいということで、14年前の57歳でA班に入会した。私の当時の歩行は体力任せに歩き、転んで足首の骨にヒビが入ったり、膝に水が溜まって、抜いたりしたこともあった。富士山に登ったら、顔や手首まで腫れて、頭も重く、食事は普段の大食者が全く食べれ無くなったこともあった。そのようななかで豊中労山のバス山行に何度か参加しているうちに、リーダーや先輩から、登山には、いろんな技術があることを知った。これらを習得出来れば、怪我や体調を崩さずに、山の景色を楽しむことが出来ると思った。

退職して1年後(61歳)に豊中の初級登山学校に入り、地図の見方やコンパスの使い方から始まって、当時は雲上の登山と思っていたロッククライミングの初歩を教えてもらった。この技術を習得すれば、険しい山道に入っても安全に通過出来ると思った。校長からは、府連の各種学校に入ることを勧めてもらい、その秋から府連・初級冬山登山学校に入校した。その後は、夏の中級登山学校や雪崩事故を防ぐ技術も並行して学んだ。その過程で、マッターホルンにガイドなしで府連のコーチと二回登頂(63歳と68歳)、モンブラン(64歳)、モンテローザ(68歳)にも登頂した。冬の大山北壁(別山中央稜、滝沢)や八ヶ岳(赤岳主稜、阿弥陀岳北陵)、夏は錫杖岳の岩場、九州・比叡山(ニードル左岩稜)を登ることも出来た。

現在は習った技術を少しでも役立てたい思い、府連のコーチ(夏の中級登山学校、冬の初級登山学校)や雪崩講習会の講師(近畿ブロック、中央登山学校)をしている。

人に教えながら沢山のことを学んだ。その一つは、高齢でも体力、持久力や技術は向上するように思えた。瞬発力はどう頑張っても若い人の特権であるように諦めている。クライミングも決して上手ではないが、歳なりに出来るようにもなったと思う。

高齢でも登山技術を習得できる体験が出来た。現在71歳であるが、登山中の歩き方を特に重要視している。年齢や歩荷重量によって、歩行スピードを調節(有酸素運動)すると、呼吸・循環機能の改善と肥満解消に効果があると云われている。また、安全にも繋がると確信している。

これからも、より深く学ぶと共に、習得した技術を多くの人に伝えられるようにしたい。

最後の晩餐

C班 安藤 誠一郎

「人生で最後に、どこか1つだけ山に登ることができるとしたら、どこの山に登るだろうか？」ふと、そんなことを考えました。

答えは思いのほか容易に浮かびました。六甲山です。

初めて六甲山に登ったのは、入会して間もない頃のハイキングセミナーでした。集合場所に行ってみると、待っているのは徳原さんと広高さんのお2人のみ。一般参加者はゼロでした。暖かな春の陽気を浴びて登り始めると、神戸の街並みと海の美しさに感動し、何度も何度も振り返りながら登りました。綿のTシャツを着ていた僕は、休憩中に寒さでガタガタ震え、広高さんから「山では化繊にしないとダメだよ」と、基本中の基本から教わったものでした。

やがて、テント泊縦走をするようになり、お盆のアルプス山行に備え、重いザックを担ぎ、灼熱の中、汗をポタポタ垂らしながら歩きました。不快で苦痛極まりないのですが、一軒茶屋のかき氷、有馬温泉、「眠眠」等が全ての苦労を爽快感に変えてくれました。暑い六甲で鍛えたボッカ力はなかなかのもので、アルプスに行ってもさほど苦労することはありませんでした。

その後、大阪府連・中級登山学校に入学し、アルパインクライミングを始めました。六甲山には、「保墨岩」という古い岩場があります。ここは、ホールド・スタンスが細かく、ムーブが要求される難しいルートが多く、初心者である生徒は、次々とフォールし宙吊りになります。この岩場を登り込むことで身に付けた技術は、アルプスの大岩壁でも十分に通用するものでした。

10月半ばに中級登山学校が終わると、雪山の季節です。また、重登山靴とアイゼンを身に付け、20キロ以上の荷物を担ぎ六甲を歩きます。空中戦ばかりで弱った足腰にはこたえますが、美しい雪の稜線を思い描いて歩を進めます。近年は、正月、GWにはアルプスの雪山へ出かけるようになりました。

思えば、僕の成長は、常に六甲と共にありました。六甲は大昔からそこにあり、多くの岳人を育て、送り出してきたのでしょう。僕は、そのような六甲をこよなく愛し、これからも通い続けたいと思っています。

幸せについて本気出して考えてみた

C班 細井 裕子

幼い頃の私は、ボンレスハムのようにムチムチで、“動かない子”だったらしい。徒競争はいつもビリ、後ろでんぐり返しであさっての方向へゴロン…、なるべくして「運動＝苦痛」という思考回路ができあがり、体育の時間は嫌で嫌で仕方なかった。

大学生になった私は、将来、自らの飯代を稼ぐ術となるであろう「手話」を身につけるべく、手話サークルに入るつもりだった。しかしその目論見は外れ、「部活動どうすつかあ…？」と思っていたときに手にしたのが、ワングル部の勧誘チラシだった。

サッカー部へ入るといふ友達と一緒に体育系サークルの部室がある建物へ向かった。むさくしい建物や男どもの雰囲気や圧倒されながら、恐る恐るワングル部の部室を覗いた私の目に飛び込んできたのは、とても綺麗とは言い難い狭い部屋と、それとはギャップのある爽やかな写真の数々だった。

ドギマギする私に、「あー見学？どーぞー」と声をかけてくれたのが、当時の部長だった。元来、旅や自然が好きな私は、「山登りだけでなく、ツーリングとか、無人島探検とか好きなところへ行って、好きなことできるよー」との説明に気持ちが揺れ動いた。しかし何より私を強くとらえて離さなかったのは、この部長の、猿と大仏を混ぜて二で割ったような顔つきと、どこにいてもこの人と分かる独特の笑い声だった。

活動はそれなりに楽しんだが、いろいろあって3回生で退部。ワングルから遠ざかっていたある日の早朝、一つ上の先輩から突然電話がかかってくる。その部長が、部の倉庫で自ら命を絶ったという内容だった。倉庫を皆で片付け、部長の、新たな旅路での幸せを祈った。

結婚してしばらくは山から遠ざかっていたが、手話サークルの友達が山好きだと分かり、ときどき一緒に登るようになった。呑み屋では山の話で盛り上がり、こうして、山と手話とがほぼ半分ずつを占める現在の私ができあがった。

ある日キャンプに行った際、広げたグラウンドシートを見て驚いた。なぜかそこには本人の筆跡で部長の名前が書かれていた。先輩と一緒にいった山は本当にわずかで、なぜ私の手元にあったのかは今でも謎だが、それから私は、山が見せる様々な表情を目の当たりにするたびに、この魅惑的な世界を教えてくれた先輩のことを思い浮かべるようになった。

3.11 東日本大震災。モンベルが救援物資を集めると聞き、迷ったが、そのシートを送った。これで一人でも救える命があるなら…という勝手な願いを込めて。

好きな山に登って、素敵な景色や人たちに会える自分はなんて幸せもんなのだらうと思う。この幸せを、ずっとずっと大切にしていきたい。

私と豊中労山

A班 高橋 美明

久しぶりに(11月)橋本先生にお会いしました。初級学校の時を思い出しました。私一人のために、岩登りの懸垂下降訓練をしてくださったこと。何時もコーチの方々と楽しそうに指導してくださって、私たちも嬉しくて辛さなども忘れられました。生徒は10人前後でしたが、お手伝いの方々が一人につき二人ほどいつもついて下さった事を思い出し、会員の皆様も仲間が増えるのを喜んでおられるのだと思いました。

初の本格山行は北アルプス白馬岳でした。猿倉からの登り、大雪渓を登った所で暴風雨になり時々、岩陰に身を寄せて休みながらやっとの思いで山小屋に着き、ほっとしたものです。次の日も暴風雨でしたが、昼頃より風雨が弱まりましたので白馬岳に行きました。このように、初めてのアルプス山行は白馬岳のピストンで、山での暴風雨の強さに驚きました。この時、「無理は絶対にしないことや安全第一であることの大切さ」を強く感じました。

その後は、諸先輩の方々に山行の下見に同行させて頂いたりして、少しずつ山の奥深さを知りました。また、時々コースリーダーや、部員の手伝いもさせても頂きましたが、諸先輩や仲間の手助けがあってこそできたものだと思っ感謝しています。

豊中労山に入り、約8年になります。一番最初は、武田尾から中山寺コースの公開ハイキングでした。新聞を見て参加したいと電話をしました。受け付けは藪さんでした。これからも、良き仲間と楽しく山行を続けたいと願っています。年齢の事も考えて、安全でゆっくりな山行をしていきます。よろしくお願ひします。